

## 麻疹(はしか)の流行について(12)

先週に引続き全国的に報告数は、減少していますが、患者発生は続いています。横浜市では、報告患者数は第22週をピークに4週連続で、減少していましたが、今週増加しています。引続き注意が必要です。

### < 感染症発生動向調査による患者報告数 >

麻疹(成人麻疹を除く)の流行状況については、全国で約3000か所、横浜市では84か所の小児科診療を行っている指定届出医療機関(小児科定点)からの報告により、把握しています。

成人麻疹(15歳以上)の流行状況については、全国で約450か所、横浜市では3か所の基幹定点(内科と小児科を持つ300床以上の病院)からの報告により把握しています。

小児科定点および基幹定点からの患者報告は、月曜日から日曜日までの1週間ごとに行われており、1週間単位での集計結果を、ホームページ等で、公表しています。

横浜市では、小児科定点からの報告は、

第27週(7/2~7/8) 5人(11か月1人、2歳2人、3歳1人、15~19歳1人)

と、第14週以降、発生が続き、2007年の累計報告数は83と、2006年の年間報告数16の5.2倍になりました。

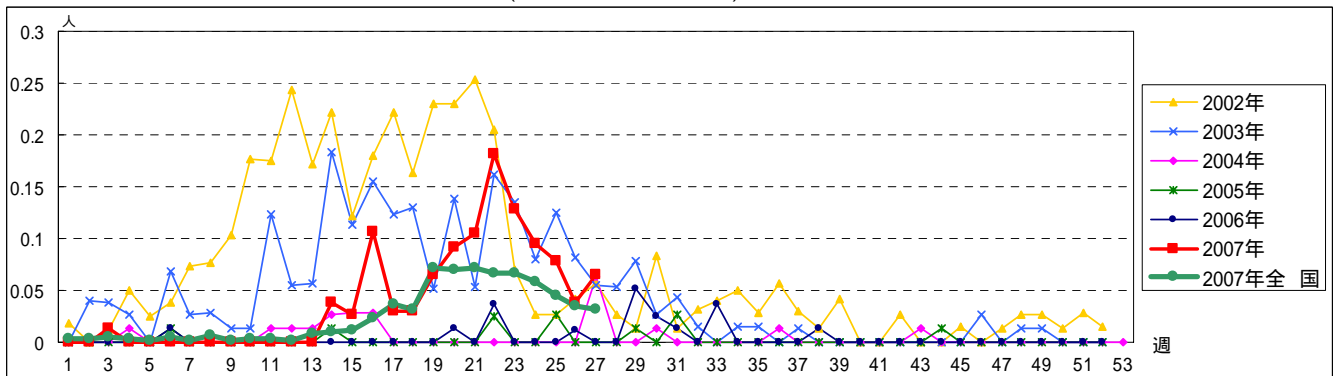
\* 15歳以上の患者が、小児科定点を受診する場合もあり、ご報告いただいたものは計上しています。

### 各区別の情報は「横浜市感染症発生動向調査週報一覧 (横浜市衛生研究所)

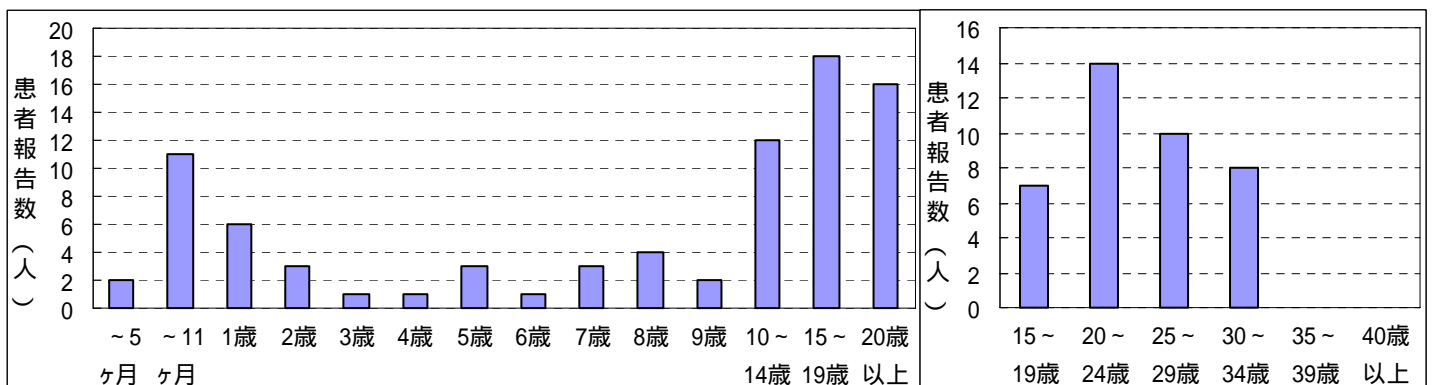
([http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/topic\\_inf/kansen\\_khama.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/topic_inf/kansen_khama.html)) をご覧下さい。

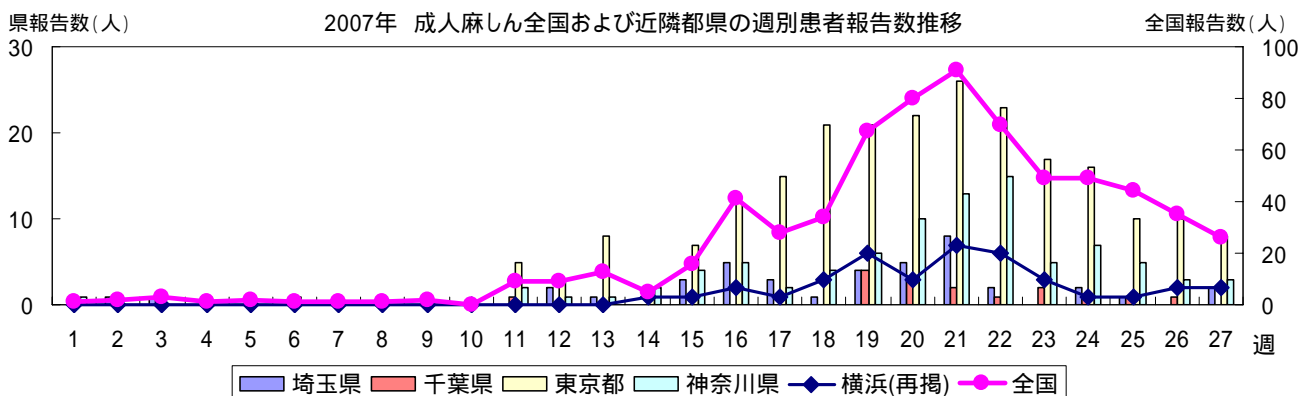
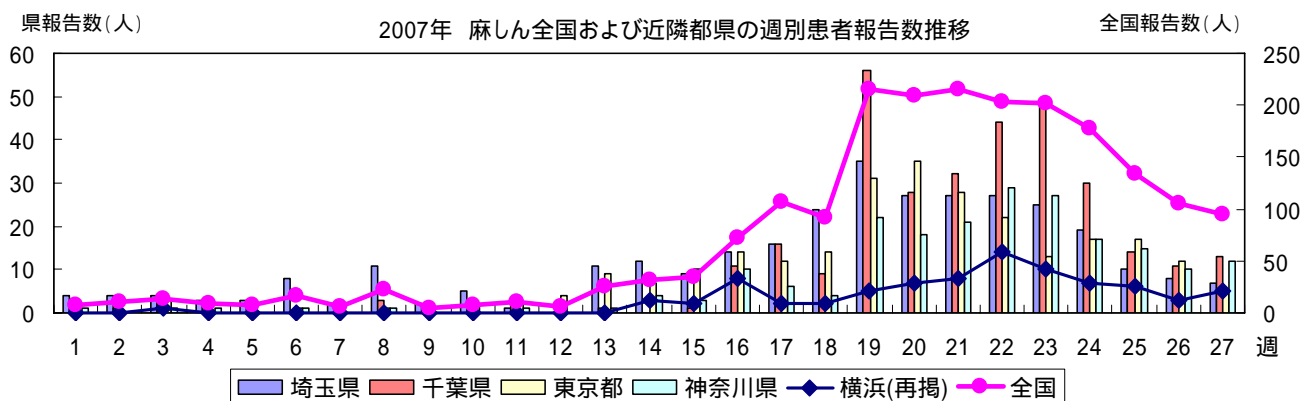
麻疹は、全数報告ではなく、定点からの報告のため、実際の発生数は、もっと多い可能性があります。

横浜市における麻疹(成人麻疹を除く)定点あたり患者報告数の推移



横浜市における麻疹および成人麻疹の年齢別患者報告数 (2007年1~27週)





「2007年 全国と関東における週別麻疹および成人麻疹患者報告数」

([http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2007nen/table.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2007nen/table.pdf))

< 参考資料 >

・麻疹(はしか)に関する Q&A (厚生労働省)

(<http://www.mhlw.go.jp/qa/kenkou/hashika/index.html>)

・疾患別情報 麻疹 (国立感染症研究所)

(<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

Q & A (<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/QA.html>)

関連情報 医療機関での麻疹の対応について、保育園・幼稚園・学校等での麻疹患者発生時の対応マニュアル 等

(<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/taiou0610.pdf>)

・感染症発生動向調査 週報2007年25週(第25号)「注目すべき感染症」(国立感染症研究所)

(<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/idwr/idwr2007/idwr2007-25.pdf>)

・麻疹発生データベース 報告患者のサマリー 2007/7/10現在

(<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/meas-db.html>)

## < かかってしまったら... >

- ・乳幼児については、症状出現時は、母子手帳で予防接種歴を確認し、早めに医療機関に相談しましょう。
- ・10～20代の方は、発熱等出現時は、無理をせず、学校や仕事を休んで、自宅で安静にし、様子を見ましょう。  
ワクチン接種あり 修飾麻疹なら、比較的軽い経過ですので、自宅で1週間前後療養しましょう。症状が軽くても、伝染力がありますので、外出の基準については、麻疹に準じましょう。個人差がありますので、症状が強い場合や、登校・出勤の判断については、医療機関等でご相談ください。
- 未接種、未罹患 通常の麻疹の経過をとりますので、医療機関を受診しましょう。症状がつかく、合併症にも注意が必要ですので、一人暮らし等では入院が必要な場合もあります。

## < 医療機関を受診する時 >

**必ず事前に電話で以下の事項を伝えて、受診の仕方(時間の指定、待合室の指定など)を確認しましょう。**

- 1 学校、職場、家族等で麻疹の患者が出ている場合は、その詳細
- 2 ご自分の症状と、予防接種歴

何も連絡せずに受診し、黙って、待合室で他の患者さんと一緒に待つ事がないようにしてください。

## < 予防接種について >

2006年4月から、MRワクチンの2回接種が開始され、定期接種対象年齢は第1期：生後12～24か月未満、第2期：小学校入学前年の4/1～3/31です。対象者は、速やかに接種しましょう。  
特に、第1期(生後12～24か月未満)のできるだけ早い時期の接種が重要です。  
未接種・未罹患患者には、ワクチン接種が勧められます。

麻疹(はしか)に免疫のない妊婦が感染すると、流産や早産を起こしやすくなるため、未接種・未罹患患者は、妊娠前に必ず予防接種を受けましょう。

2007年7月9日、厚生労働省で、「予防接種に関する検討会」が開催され、2012年までの5年間に麻疹の排除を目標とする計画の原案が示されました。

参考：第14回予防接種に関する検討会資料

(<http://www.wam.go.jp/wamappl/bb14GS50.nsf/vAdmPBigcategory40/B84FC10179A2C07A49257315000137CD?OpenDocument>)

接種機会の確保、接種率向上のための取り組み、麻疹患者発生時の迅速な対応、評価体制の確立等が、対策の柱になっています。

接種機会が1回であった者に対するキャッチアップとして、現在の小学校2年生から高校2年生にあたる10年層に対する2回目の接種機会を確保するため、厚生労働省は、来年度より、5年間の時限措置として、中学1年生及び高校3年生を対象に、定期予防接種を追加する方針を明らかにしました。

その他の部分については、今後さらに検討していくようです。

国立感染症研究所が、麻疹抗体保有状況について、2006年の暫定値を発表しました。

・麻疹PA抗体保有状況 [2006年度調査暫定値]

年齢別/年齢群別 麻疹PA抗体保有状況 (<http://idsc.nih.go.jp/yosoku/graphA.pdf>)

麻疹ワクチン/MRワクチン/MMRワクチン

1回接種者における麻疹PA抗体保有状況 (<http://idsc.nih.go.jp/yosoku/graphB.pdf>)

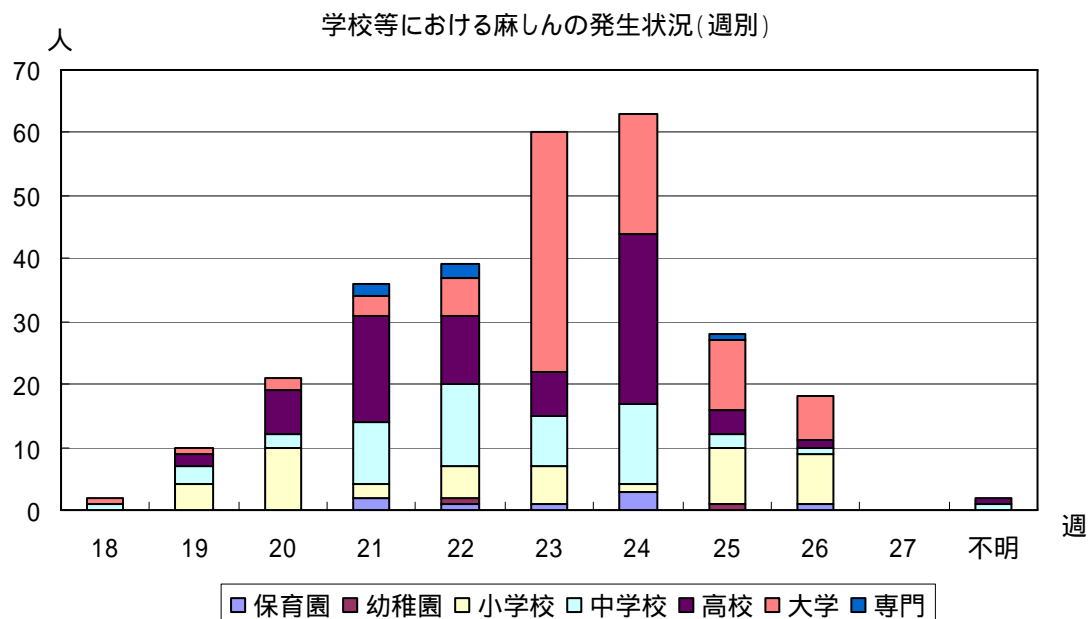
< 学校等における麻疹の発生状況(横浜市) >

2007年7月13日現在、第27週の発生状況の報告はなく、横浜市内の麻疹患者が発生した施設数は計121か所で、患者数は計279人となっています。施設数では高等学校が38か所(31.4%)、患者数では大学が88人(31.5%)と多くなっています。

10代、20代等の年長者の行動範囲は広く、また感染力は強いものの発熱やカタル症状が主で麻疹のみられないカタル期や、**修飾麻疹**においては、麻疹と自覚しないままに活動を継続してより広範囲に感染を広げてしまう可能性が高いものと考えられます。

詳細は「横浜市内における麻疹の流行に伴う休講等の報告」をご覧ください。

([http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/measles-kyukou.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/measles-kyukou.html))



< 集団感染の発生を防ぐために >

学校、大学等の集団においては、発生に備えて、学生や職員の、麻疹ワクチン接種歴や麻疹既往歴を確認しておきましょう。

未接種者や、未罹患者には、ワクチン接種を勧奨しましょう。

迅速な対応が必要になるので、1例でも発生した場合は、校医や福祉保健センターに相談し、対策を検討しましょう。

患者発生時には、全学生や全職員に毎朝検温を実施してもらい、37.5度以上の場合は、外出を控えるように指導しましょう。

感染拡大防止のため、必要に応じて、休校やワクチンの接種を検討しましょう。

潜伏期間も考慮して、休校は、最低10日間を考えましょう。

< 参考資料 >

- ・こどものための健康情報 (横浜市子ども青少年局)  
([http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/))
- ・「千葉県麻疹対応マニュアル」(千葉県健康福祉部)  
(<http://www.phlchiba-ekigaku.org/measles/Manual%20for%20measles%20of%20Chiba%20Prefecture.pdf>)
- ・医療機関での麻疹の対応について、保育園・幼稚園・学校等での麻疹患者発生時の対応マニュアル 等  
(<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/taiou0610.pdf>)
- ・<速報> 高校における麻疹患者発生時の対応事例 - 福岡県  
(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/pr3302.html>)